

## 第1回 かまくらばくふ 鎌倉幕府の成立

### 1. げんぺいかっせん 源平合戦と めつぼう 平氏の滅亡

- \_\_\_\_\_年、\_\_\_\_\_が兵を挙げ、平氏の政権に反対する勢力が終結する。
- \_\_\_\_\_が平氏を西に追い詰め、\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_の戦いで平氏滅亡。

### 2. かまくらばくふ 鎌倉幕府のはじまり

- \_\_\_\_\_は\_\_\_\_\_で政治の仕組みを整える。
- \_\_\_\_\_年、全国に\_\_\_\_\_を置く権利を手に入れる。
  - 侍所…御家人のかんとく
  - 政所…政治一般
  - 問注所…御家人の裁判
  - 守護…国ごとの軍事や警察の仕事
  - 地頭…荘園での年貢の取り立てなど
- \_\_\_\_\_年、\_\_\_\_\_が\_\_\_\_\_に任じられる。

### 3. かまくらばくふ 鎌倉幕府の様子

- 鎌倉は山と海に囲まれ、敵が攻めにくい地形。
- 陸路で鎌倉に入るには、せまいい山道\_\_\_\_\_を通る必要があった。

### 4. 武士の暮らし

- 将軍と御家人は、\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_の関係で結びついていた。将軍は御家人の領地を認めたり、新たに領地をあたえたりする（御恩）代わりに、御家人は戦いが凝った時に命がけで戦う（奉公）。
- 戦いがないうちは、領地を管理しながら、\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_などの武芸のけいこを行い、戦いに備えた。

## 第2回 北条氏の台頭と鎌倉幕府の動よう

### 1. 北条氏の台頭と承久じょうきゅうの乱らん

- 将軍を助ける \_\_\_\_\_ に \_\_\_\_\_ がつき、北条氏が実権をにぎる。
- 源氏将軍は三代でとだえる。
- \_\_\_\_\_ の乱（1221年） \_\_\_\_\_ が執権 \_\_\_\_\_ に戦いをしかけるが、 \_\_\_\_\_ の演説で幕府軍が団結して勝利する。  
→ 朝廷を監視する \_\_\_\_\_ を設置。

### 2. 御成敗式目ごせいばいしきもくの制定せいてい

- 1232年、執権 \_\_\_\_\_ が御家人の裁判を公平に行うための法律として \_\_\_\_\_ を制定。

### 3. 元げんとの戦い（ \_\_\_\_\_ ）

- 執権 \_\_\_\_\_ の時（1274年 \_\_\_\_\_、1281年 \_\_\_\_\_）
- 幕府軍は文永の役の後、博多湾はかたわんに \_\_\_\_\_ を設置するなどして戦った。
- 元寇後、多くの御家人には新たな領地を与えなかったため、幕府への不満が高まった。

### 4. 鎌倉幕府の動揺

- 生活に苦しむ御家人を救うため、 \_\_\_\_\_ （1297年）を出す、効果がなく、御家人の幕府への不満が高まる。
- \_\_\_\_\_ 天皇のもと、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ らが戦い、 \_\_\_\_\_ 年に鎌倉幕府がほろびる。

### 第3回 鎌倉時代の文化と暮らし

#### 1. 農業の発展

- \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_などの利用により、農業生産力が高まる。
- 西日本では、麦を裏作とする\_\_\_\_\_が行なわれるようになった。

#### 2. 商業と交通の発展

- 月に\_\_\_\_ほどの\_\_\_\_が行なわれるようになる。京都・奈良・鎌倉などの大都市では常設の店も登場。
- 品物の売買には\_\_\_\_\_を使用。

#### 3. 鎌倉時代の新仏教

- \_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_を唱えることで救われるという分かりやすい仏教が人々の間に広まった。武士の間では、きびしい修行の\_\_\_\_\_が広まった。  
浄土宗系：\_\_\_\_\_（\_\_\_\_\_）、\_\_\_\_\_（\_\_\_\_\_）、\_\_\_\_\_（\_\_\_\_\_）  
日蓮宗：（\_\_\_\_\_）  
禅宗：\_\_\_\_\_（\_\_\_\_\_）、\_\_\_\_\_（\_\_\_\_\_）

#### 4. 鎌倉時代の彫刻と建築

建築		重源が資金を集めて再建。シンプルで堂々とした建築様式。奈良にある。
		整然として美しい建築様式。鎌倉にある。
彫刻		_____に納められている。 力強い作風。_____・_____作